日本のサッカーにおけるユース年代の育成方法について

馬場本　大佑（競技スポーツ学科　コーチングコース）

指導教員　松田　保

キーワード：ユース育成，全国高校サッカー選手権大会，

1，はじめに

近年の日本のサッカーは素晴らしい実績を残してきている．さらに世界有数のビッククラブであるマンチェスター･ユナイテッドやインテル･ミラノで活躍する香川真司，長友佑都といった選手が出てきたことで日本のサッカー界は大きく前進しているといって間違いない．

こういった傾向の背景には日本サッカー協会が JFA2005 年宣言を実現するために育成や普及活動を行ってきたからだと言える．日本サッカーの強化構想として「三位一体の強化策」を掲げてきた．「三位一体の強化策」とは，①代表強化，②ユース育成，③指導者養成という3つの部門が同じ知識・情報を持ち，より密接な関係を保ちながら，選手の強化育成と日本サッカーのレベルアップを図るというシステムである．

2，研究の目的

日本は2009年，2011年，2013年と三大会連続でFIFAU-20ワールドカップの出場を逃している．日本代表がこれまで以上に活躍するためには，ユースの年代から世界で戦えるようにしなければいけないと考えられる．

本研究ではユース年代の育成方法において，特に高校サッカーに着目し，高校サッカーに属している選手の選手権に対しての意識やキャリア志向をそれぞれ調査し，高校サッカーの問題点の原因を解明し，日本のサッカーが発展するために高校サッカーの在り方を含め，日本らしい育成方法について考察することを目的とする．

3，研究方法

先行研究を参考にアンケート項目を製作し，近畿地方で第91回選手権に出場した高校のサッカー部45名を対象にアンケートを取り，意識調査を行う．

4，結論

幼いころから選手権という舞台に憧れ，選手権に標準を合わせてサッカーしてきたということが伺える選手が多かったため，選手権が終わった後の具体的な目標を掲げてなく，バーンアウトしサッカーを辞めてしまう選手が多い．

選手権という大会にとらわれすぎない考えで育成し，選手権の存在価値は残したまま，大会自体の枠組みを変えて，意識を選手権からもっと上に標準を合わせられる方法に変えることが必要である．

【参考文献】

・日本サッカー協会（http://www.jfa.or.jp）

・上向 貫志，飯田 義明，玉井 朗，東海林 毅（2007）：「Jリーグユース選手におけるキャリア形成とプロ志向に関する研究」武蔵大学人文学会雑誌，39／2，206-220／14